

菅頭ゼミ 2023 年度研修旅行

考古学を専攻している菅頭ゼミは、「福岡・佐賀の原始・古代遺跡やそれに関連する博物館を見学し、考古学的な視点から原始・古代九州の様相を理解する。また、新たに得た知見を今後の研究に生かす」ということをテーマに、九州北部の考古学的遺跡を中心に巡りました。

【1日目】

福岡城、鴻臚館、福岡市立博物館、西新地区元寇防塁を訪れました。

特に印象深かったのは、古代における日本の玄関である鴻臚館跡展示館を訪れ、発掘当時の遺構、出土品などをみることができたことです。鴻臚館と古代の太宰府との関係もパネルで分かりやすく説明されていて、研修初日に研修旅行のテーマについて、再確認できました。

また福岡市立博物館でも、旧石器時代から現代に至るまでの福岡に関する展示品が時代に沿って展示されており、福岡の歴史の歩みを理解することができました。特に、「漢委奴国王」の金印には強烈な迫力を感じました。



【2日目】

春日市奴国の丘歴史史料館と吉野ヶ里遺跡を訪れました。吉野ヶ里歴史公園には、多くの復元建物や展示室がありましたが、中でも北墳丘墓では、発掘現場の一部をそのままの形で保存展示しており、発掘当時の状況を知りつつも遺物を間近でみることができ、土に埋められている状態の甕棺はインパクトがありました。



【3日目】

太宰府周辺を訪れ、太宰府天満宮、九州国立博物館、太宰府政庁跡へ赴きました。

太宰府天満宮の本殿は、124年ぶりの改修中であったため、仮殿へお参りしました。この仮殿は屋根の上に草木が植えられているなど、全体的に現代的な造りになっていましたが、境内では現代的なアートも展示されており、文化芸術の神様が祀られる場所として、積極的に各時代の芸術が取り入れられていました。

また、太宰府政庁跡では、政庁建物の基礎の復元などから当時の規模感や構造を知るとともに、VRを用いて見学することで、古代の様相を明確に想像することができました。



【最終日】

4日目は、まず6世紀後半に造られた、装飾壁画が残された前方後円墳である、王塚古墳に訪れました。王塚装飾古墳館には実物大の石室や、全国各地の装飾古墳についても模型が展示されており、それぞれの違いや特徴を比較しながら学ぶことができました。特に装飾古墳で使用されていた顔料の展示が印象に残っています。



その後、福岡市埋蔵文化財センターや板付遺跡に行きました。福岡市埋蔵文化財センターでは、職員の方に直接解説してもらいながら、施設の収蔵庫を見学することができました。収蔵庫内に並ぶ甕棺の量に圧倒され、これまでに無いほど近い距離で見られたため、甕棺に関してより深く学ぶことができました。

板付遺跡では環濠集落や水田の跡が復元されており、板付遺跡弥生館においても、日本における稲作文化発端の遺物を見て、実際に当時の道具の復元品などを体験することから学びました。特に、紡錘車を使用して糸を紡ぐ様子を館の方に見せていただき、展示を見るだけではわからないことを学ぶことができました。



この四日間で、様々な遺物、遺跡を直接見ることによって普段写真や資料から見るだけでは得ることのできない情報を得ることができました。



福岡城天守台にて